

平成 26 年度 第 1 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成 26 年 6 月 20 日（月）午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分

【場所】市役所 6 階 602 会議室

【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・今村 尚美・来村 多加史・中道 厚子・長山 公一・

中脇 健児・寶楽 陸寛・水落 学・安福 迪子

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局文化・スポーツ振興課）〉

大江・森井・上田・東畑・西尾

【配布資料】

- ・平成 26 年度 第 1 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 次第
- ・資料 1 平成 25 年度 第 5 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

以上

**末延委員長**

前回からの経過では議事録の 11 ページに書いているように、この委員会ではラブリーホールの事業に限定して評価するというので進めている。ラブリーホールの事業に対する評価軸、設問を考え、それを文章化していく。前はグループに分かれ評価軸を考えたので、今日は来村委員の C グループの評価軸をベースに設問を考えていく。その中で、ラブリーホールの事業に対してどういう見方をするか、どういう軸をとるか、8 つ全ての軸が適しているかどうか検討すべきだと思う。C グループの軸をベースに稼働、収益、持続、理念、教育、福祉の設問を考えていく。前回は満足度や認知度に関しては会場アンケート、まちかどアンケートなどの様々な意見が出たが、これについてどうでしょうか。

**来村委員**

スケジュールについて議事録の 11 ページに 7 月に一度評価すると書かれているが、今後どのようなスケジュールで進めるのか確認したい。

**末延委員長**

次の会議は 8 月 25 日。

**東畑主査**

予定としては、前回 8 つの座標軸を決めましたので、1 つずつ座標軸の中の設問を検討していただき、その設問ができた状態で次回それに基づいてラブリーホールの事業を実際に評価していただきたい。

**末延委員長**

この委員会で評価をするにあたり、その設問を今日考える。

**来村委員**

満足度と認知度についてはアンケート調査が必要だが、8 月に評価するとしてもそれまでには間に合わない。

**末延委員長**

議事録には他のアンケートについては事務方で揃えられる、揃えられないとなっているがどうか。

**来村委員**

その辺をどうするか。出来ないことは省くしかない。

**東畑主査**

まちかどアンケートに関しては、最終的には文化振興計画を策定するための市民アンケートとして周知させてもらおうと思います。年間予定に入れており、今年度中に実施したいと考えていますが、8 月には間に合わないと思います。会場のアンケートに関しては、今日ご検討いただく指標に沿ってそれに合うような情報が必要であれば提供させていただきたいと思っています。

**宝楽委員**

提案ですが、今から各座標について多くの意見が出ると思うのでホワイトボードに書きながら進めるのはどうでしょうか。

末延委員長

フリートークでの意見を全てホワイトボードに書き、整理して出された意見がどの軸に入るか分類していきたい。宝楽委員と中脇委員、書いたり貼ったりするのをお願いします。今日の会議は設問がメインなので、意見を出してください。

宝楽委員

設問になるキーワードを集めていくということか。

末延委員長

そうです。

宝楽委員

貸館は入らないのか。

末延委員長

それも含めてご意見いただきたい。

中脇委員

Cグループ前提で進んでいるが、前回A・B・Cグループそれぞれにこだわりがあったと思うので、そのポイントだけでも押さえておくべきではないか。A・Bグループの意見で留意事項としてあったのが、行動評価と成果評価を分けた方がいいのではないかと、福祉や生涯学習を総合的に見た方がいいのではないかと。あとは点、線、面の循環や、設問が15個くらいの詳細評価があった。

宝楽委員

市民参加を別に設定するという意見もあった。

中脇委員

これらを含めた上で話し合ってください。

末延委員長

まず、このCグループの軸の分類はどうですか。

宝楽委員

この分類をベースにするがこれだけに縛られず、軸を足した方がいい等の意見もあれば書きます。

来村委員

認知度のアンケートは時間的に間に合わないので、分母の数値が出てこない。出てこないものは省くしかない。アンケート以外で何かできるのであれば言ってもらいたい。数値がなければ感覚的になってしまい、ラブリーホールを知っているかどうかは測りようがない。収益と稼働はラブリーホールが把握しているという話だったので、それが一番しっかりとした数値が出てきそう。

中脇委員

事業評価で稼働率について貸館と自主事業を一緒にしているのかが気になっている。

水落委員

貸館と自主事業では数字・座標が違うのではないか。貸館は稼働率、自主事業は集客率。

中脇委員

行政では目的は絞られているのか？

東畑主査

目的はラブリーホールの事業評価です。

中脇委員

その事業に貸館は入っていないのか？

東畑主査

主にソフト事業と思っています。

中脇委員

自主事業、共催、後援ぐらいか。

東畑主査

ただ、皆様がハード的な貸館の部分も含めて評価した方がいいということであれば、そのように進めていただいてもいいと思います。

中脇委員

集客率、収益率といった言葉で言い換えればいいのではないかとと思う。

水落委員

単純に何%だったかと、365日から自主事業を抜いた残り150日の空いている日の中でどれだけホールが稼働しているのかというのは全く別だと思う。

中脇委員

そうですね。そこは後でもう一回見直しましょう。行動評価と成果評価を分けた方がいいというのはどなたが言ってくれたのか。

浅尾委員

行動と成果を分けるといったのは最初ラブリーホールの事業だけでないと思っていたから。河内長野市の文化振興計画において、目標を挙げ、その目標に対してどれだけ行動を起こしたかというのを評価した方がいいと考えた。これをラブリーホールの事業に限定するなら、ラブリーホールとしてどういう状態を目標としているのか、もしくはどういう事をやろうとしているのかをまず明確にしないと行動評価として難しい。

中脇委員

目標が理念となり、それが達成できているかどうか。

浅尾委員

成果は以前言ったように稼働や収益に関わってくるのではないか。

末延委員長

理念が行動評価になるということですね。

宝楽委員

理念という中長期的なビジョンと収益を高めるのは一緒だと思う。市民力の育成と文化力の育成などのように計画とミッションのようなもので、包括していいのではないか。つ

まり理念の中に行動目標の達成率と成果達成率で、営業力的なものは成果では測れるのではないか。

**末延委員長**

理念をどれだけしっかり持っているかがひとつのキーワード。

**中脇委員**

それに対してどういうアクションをしているか。ここでは設問の細分化でより意味が出てくると思う。

**来村委員**

宝楽委員から中長期的なという言葉が出たが、分けるのであれば長期的・中期的・短期的な理念という形で分けてはどうか。

**末延委員長**

分かりやすいですね。

**来村委員**

設問を細かくするのであれば、まず理念がしっかりしているかどうかを評価する。

**中脇委員**

概念評価より存在するアクションを行動評価の方が意味あると思う。表の上にラブリールホールや文化行政が目指していることが1, 2行出て、それに対応するレーダーチャートで評価し、文章がそれぞれくると思う。あとは点、線、面の循環という部分があった。

**宝楽委員**

循環に関して、例えば学校教育と文化、生涯学習領域と文化が繋がっていることを言っているのか、それとも福祉的な側面から入れるという話もあったがどうなのか。

**中脇委員**

横断的に繋がるという部分と、芸術家を育成した人が学校に教えに行くような一つ一つの事業が連携・ステップアップしていくという部分があった。

**中道委員**

点と線と面は絶対入れて欲しい。ただ、理念とその成果を取ると収益と稼働が重なったり、教育と福祉が下にあって持続が上にあるというのも違和感がある。8つの軸ではなく、4つの方向の縦横の軸で関連性の高いところを括っていく方が分かりやすい。

**中脇委員**

そうですね。単純に収益、公益のように。

**荒川委員**

ただ、このタイプのグラフとこちらは違う。レーダーチャートは8つの方向で何点かというもの。こちらは収益と公益、対極にあるものがどのあたりなのかということ。

**中脇委員**

順番の問題だと思う。

**来村委員**

出てきた順に書いているので、それを組み替えないといけない。

宝楽委員

話し合っているうちに出てくる共通項を揃えていけばいい。他にどうですか？

来村委員

持続に記載のある市民事業は下の福祉教育と関連があるのでそちらの方に。

中脇委員

そちらの方ですね。なぜ満足や認知がこちら側になるのか。

宝楽委員

満足や認知も成果ですか？

来村委員

成果です。

中脇委員

ぐるっと方向を変えるだけでいいのではないか。

来村委員

やはり理念は上ですね。

中脇委員

キーワードに対する掘り下げが大体出来た。あと、教育では、アウトリーチと学校教育のようなことが出来ていれば良いのか。また、芸術家の育成は教育ではないのか。この辺りの掘り下げをしたい。

荒川委員

教育は学校教育だけではなく生涯教育もある。また幼児教育はどこに入るのか。

末延委員長

幼児教育は学校の中に入れた方がいい。それを細かくすると生涯教育も社会教育の扱いになってしまう。

中脇委員

福祉はどうか。アウトリーチについては複合的なキーワードのような気がする。福祉と言えば何かあるか。

宝楽委員

福祉と言えどどのような評価をするイメージなのか。福祉は皆さんそれぞれで考えが違った。

中脇委員

やはり高齢化の部分で考えないといけないところだと思う。

中道委員

施設に歌いに行ったりしていますよね。

中脇委員

施設訪問という感じか。

宝楽委員

アウトリーチで想定されるもの。

**中協委員**

健康促進や医療活動、生きがいつくりのようなことだろうか。

**来村委員**

市では福祉はどのようになっているのか。

**東畑主査**

文化と福祉の関係は弱いです。昨年度から文化と福祉を出来るだけ結び付けて活動するという事で、アウトリーチとして文化行政と介護関係の部署とラブリーホールが三者一体となり特別養護老人ホームにラブリーホールの演奏家を派遣しました。今年度は既存の特別養護老人ホームと、更に別の福祉施設を訪問しようと考えています。行政としてはこれから文化と福祉の関係に力を入れたいと思っています。

**中協委員**

文化・スポーツ振興課で所管しているのはラブリーホール以外何があるのか。

**東畑主査**

文化行政としてラブリーホール、生涯学習としてキックスがあります。それ以外に国際交流も担当しています。

**中協委員**

行政の縦割り感覚では、生涯学習部でない他の部署の課はかなり遠い存在だと思う。その状況で我々が期待を持って他の部署と連携してほしいと言うのは、前提として行政が本来こうしていききたいという理念と経営の方針を分かった上での方がいいと思う。生涯学習部には他にどういう課があるのか。

**東畑主査**

ふるさと交流課。文化財と公民館活動等の成人教育を担当しています。

**中協委員**

文化・スポーツ振興課はスポーツセンターを持っているのか。

**東畑主査**

総合体育館を持っており、市内のスポーツ団体を所管しています。部の中にもう一つ図書館があります。

**中協委員**

ここを出ている福祉や教育は生涯学習部で収まっているのか。

**東畑主査**

福祉は生涯学習部ではないです。生涯学習部は教育委員会の部署で、福祉は教育委員会以外の違う部署になります。教育に関しては私達は教育委員会に所属するが、教育の中の学校関係は隣の部になります。

**中協委員**

それが分かるだけで評価の順番がはっきり出てくる。あと子育てはどうか。

**東畑主査**

子育ても市長部局です。

中協委員

子育ても違うのですね。ありがとうございます。

来村委員

福祉は枝分かれしないのか。

来村委員

老人福祉と障がいを持つ人の福祉というように細かく分けるといいと思う。

荒川委員

ただ、実際の福祉は高齢者が対象で、それに対してどういう働きかけをするかということがこちら側の考えている福祉に当たるので、その区分は必ずしもこちら側の福祉とは一致しない。

中協委員

福祉という言葉がイメージを変えてしまう。高齢者という言葉の方がいいかもしれない。

来村委員

福祉には高齢者だけではなく広義では子育ても入るので、これも分けたいと思っている。

中協委員

子ども・高齢者・障がい者に対して社会的マイノリティという表現がいいのか、それとも弱者という表現がいいのか。

宝楽委員

多様性はどうか。

来村委員

低所得者は福祉に入るのか。一般的には低所得者へのサービスは福祉に入りそう。

宝楽委員

福祉事業の中に低所得者支援、高齢者支援、障がい者支援、子ども支援があるが、市の事業所はそれぞれ担当課が異なっていると思う。

アウトリーチと福祉の関係性がこれではまだ見えない。

中協委員

そうですね。ラブリールホールがこれに対して行うどういった行動が評価できるのかが分からない。意見ありますか。

来村委員

細かく分類するなら病気で苦しんでいる人はどうか。

中協委員

医療領域ですね。連携してほしい。アウトリーチになるのだろうか。

宝楽委員

文化事業に行けない人の例として低所得者があり、それに対して子どもたちに無料で提供する事業もある。

来村委員

子育てで忙しく行けないなどもある。

中脇委員

この部分は普段文化事業に中々行けない、見るができない人の為のサービスと考えればよくて、それができているかどうかだと思う。

来村委員

認知は感覚でしか測れないので今回無理ですね。

宝楽委員

第五次総合計画の市民アンケートはもう行っているのか。

東畑主査

行っています。認知度の項目があったかどうかは分かりませんが。

中脇委員

認知が今まで誰もがフォローできてないのであれば、低い値または測定不可能として評価できなくてもいいのではないかな。

来村委員

今回はラブリーホールの事業が対象だが、文化事業を評価するのであれば認知の枠は必ず必要になる。今回は消したとしても全体的なことを論じるときにはまた戻さないといけないので、それならばそのまま置いておき今回は不可能としておくのがいいかもしれない。

中脇委員

あとはアンケートとメディア掲載量といったことですね。

来村委員

メディア、それとホームページなどがある。

中脇委員

そういう風に情報発信の充実と考えるといい。

来村委員

それが出来ているかどうかは、ポスターやチラシを何部刷ったか、どこまで配布したかで分かる。

中脇委員

そうですね。

宝楽委員

情報発信の行動を取ったことを評価する。

中脇委員

福祉では、アウトリーチ以外の子供コンサートなども含まれるということで、ラブリーホールの小さい部屋で行っているものも福祉で評価できるということですね。

宝楽主査

満足が一番分かりやすいのはラブリーホールの全アンケート。自主事業に関しては共通フォーマットのはずなので。

来村委員

市の広報紙にどれだけラブリーホールの事業が取り上げられたかということも分かる。

**末延委員長**

ラブリーホールの事業は別の刷り物として挟み込まれていて、広報紙には載っていない。

**東畑主査**

広報紙は市の事業が主になっていて、ラブリーニュースに掲載されている情報に関しては広報紙では掲載しない事になっています。

**来村委員**

ラブリーニュースは市の広報紙と同じ頻度で出されるのか。

**東畑主査**

市の広報紙は毎月、ラブリーニュースは2ヶ月に1回です。

**来村委員**

それは市民にどれぐらい配布されるのか。広報紙と同じ部数出ているのか。部数というのは把握できるか。

**東畑主査**

配布数は広報紙と一緒にです。それと市外もあります。部数はラブリーホールに確認します。

**来村委員**

では、ラブリーニュースの発行部数確認してください。

**末延委員長**

ラブリーニュースは市民だけでなく近隣の文化会館にも配布されている。

**来村委員**

どこまで配布しているかも確認してください。あとはマスコミやテレビで取り上げられたことがあるかどうか確認してください。

**宝楽委員**

稼働や収益についてももう少し話を膨らませましょう。

**水落委員**

自主事業では集客率がひとつの目安になる。また、自主事業は収益が出る前提と出ない前提の事業がある。収益が出ない前提の事業を行う理由は市民に対して偏った文化だけの提供にならないよう広く文化を提供するため。一方、自主事業でもドラゴンクエストのコンサートのように収益が出る前提の事業もある。これを一緒にして収益だけで見てもいいのだろうか。

**中協委員**

収入や集客に反映されていなくても別の項目でポイントが稼げていれば OK ということか。

**宝楽委員**

ミュージカルスクールのような市民参加型事業を自主事業の集客率や収益が出ない前提で評価するなら、市民参加型事業をシフトするのはどうだろうか。

**中協委員**

ここは育成やステップアップという循環・繋がりと saying いたのでそれがいいですね。

水落委員

点、線、面と saying いたが、もう1つは有機的にこの項目に絡んでいるかどうか。

来村委員

絡んでいるかというよりも、絡めているかということか。

水落委員

結果として絡んでいる場合もあるし、ミュージカルスクールのように意図的に絡めている場合もある。

来村委員

それはどちらかという理念ではないか。

末延委員長

収益が出ないのに事業を実施するのは理念的な方向。

来村委員

利益が出る事業は収益で評価でき、利益が出ない事業は他の項目で評価できるということか。

中協委員

そうだと思う。あと、そのようにしても評価から漏れていて、すでに成果が目標を達成しているような事業は、行っている意味があるのかどうかを判断してあげたほうがいいのではないか。

宝楽委員

ただ、今のところ万遍なく評価は作れているので、どこかには入っていくと思う。

来村委員

収益が出ない事業の評価が他の項目で伸びるなら、収益は単純に収益が上がっているかどうかで評価したらいいのではないか。

宝楽委員

そう思う。

中協委員

収益を評価するのは意外と難しい。黒字になればいいのか、8割でいいのか。

宝楽委員

経営でいうと粗利益などがある。

来村委員

これはラブリールホールが既に評価を作っているのではないか。

中協委員

最初に設定した予算以上かどうかということだろうか。また、助成金を獲得してきたことは評価になるのか。

来村委員

大学であれば評価されることになっている。

中脇委員

外部資金の獲得ということか。

今村委員

スポンサーはどうか。

来村委員

それも努力しなければいけない部分なので評価になると思う。

中脇委員

チケット収入だけでなく寄附金や協賛金ということですね。

宝楽委員

NPOでは5つの収入源という。自主事業収入、寄附金収入、会費収入、行政からの委託、助成金。会費というのはラブリーのL会員を評価する。

中脇委員

会員が増加しているかどうかも入れてください。

末延委員長

その会員が持続にも繋がってくるし、全部が繋がってくる。

水落委員

助成金については、文化庁の助成金や他の芸術文化振興基金という助成金も書類を出せばもらえるものではなく、ある程度の競争率があり採択されるのは全体の3分の2くらい。それが単年度か継続して採択されているのかによっても評価が違うのではないかな。

中脇委員

持続はどうですか。

宝楽委員

持続にはプロセスがあると思う。聞く人を育てるとか、教育にも関わってくるが子供達に機会を提供したりすることがある。

中脇委員

循環では機会提供、観客育成、演奏者育成、企画者育成などがある。それから、その人達が教えに行っているかどうかもある。

芸術性はどこに入るのだろうか。芸術性はあまり問うてない。大前提なのでいいのか。

来村委員

いかにその芸術に客が満足するかというところで満足はどうか。

宝楽委員

買ってきた企画ばかり行っている文化ホールがある。その点を含めて評価しなくていいのか。

中脇委員

買ってきた企画だとしても収益に繋がっていればいいのではないかな。

末延委員長

例えばグッズを売るフェスタなど、貸館事業として外部企業を入れてそこで事業を行う

のがある。主催事業と貸館事業に分けられる。

**中協委員**

自主事業の中でもプロモーターがパッケージとして都はるみコンサートのようなものを持ってきた場合、それも1つの予算を使って買っているのであれば自主事業になる。宝楽委員の言っていることは、氷川きよしのコンサートを2回まわして満席になるのと市民オペラやミュージカルが満席になるその労力が全然違うが、同じ評価でいいのかということか。

**宝楽委員**

そういうこと。例えば、ラブリーホールを他の民間会社が運営するのと文化振興財団が運営するのでは、買ってきた企画と収益率だけを目的とすれば他の民間会社でいいとならないかということ。

**中協委員**

それをそうではないと言える評価の設問が何かあるかということですね。理念評価ができていないといけないのか。ラブリーホールの看板事業がきちんとできているかどうか。

横断、有機的が抜けている。有機的という言葉は部署横断ということか、それとも部署ではなく、そのジャンルか。

**宝楽委員**

先ほどの話では、全体を横断しているのか、それとも介護と文化を横断しているのかという2つの文脈があったと思う。例えば先ほど有機的に絡んでいるということでミュージカルスクールの事業の持続性は評価できると言っていたが。

**中協委員**

必然的にこういった事業は色んな項目で点を取るからこれでいい。ただ、これは持続でいいのか、それとも市民参画、市民協働か。

**宝楽委員**

ニュアンスが違ってくる。機会提供としての市民事業なのか、それとも市民育成事業なのかということだろうか。

**来村委員**

演奏者や企画者といったものをそこで測るなら育成ではないか。持続は収益、稼働といったものからラブリーホールが持続可能なかどうかということを含めないと持続にはならない。

**中協委員**

本当に持続可能かどうかとかいう意味では持続はいい言葉。あとは文化行政の中では育成、参画、協働、連携というワードがよく出てくると思う。

**来村委員**

参画というのは何に参画するということなのか。ラブリーホールが他の事業に参画することなのか。

**中協委員**

市民参画。

来村委員

市民がラブリーホールの事業に参画するということか。

中協委員

こういう場合は線引きが曖昧。市民がステージに出演者の一人として入るところから世界音楽民族祭のように企画から市民が入るものがある。最近、参画というと企画まで入ることを言う。熱心な市民と一緒にパートナーとしてやっているかどうかというところであり、参画と協働は同じような意味合い。

宝楽委員

1つの事例で考えると文化連盟が当てはまる。ラブリーホールが文化連盟の事務局をしているので、その中で市民が行っている事業の市民参画や協働の推進などが持続になる。市民参画があれば市民事業のところはいらくないですね。

来村委員

持続という言葉がしっくりこない。やはり連携はどうか。

宝楽委員

使い古された感じがある。

中道委員

文化創造のような次に向かって生み出していくというのはどうか。

来村委員

いいですね。

中協委員

創造は少し違うように思う。持続できる連携など、何かと引っ付いた言葉ではないかという気がする。

来村委員

持続力を問うのか。

中道委員

循環を創造するようなことをしているのかと聞きたい。例えばアーティストの卵の人を呼んできて育て、その人が学校に行くことで次世代を育てるということに繋がると思うが、そういうことを考えてラブリーホールが事業を行っているかどうか、そういう目線で物事を考えて未来に向かってやっているかどうかを知りたい。

荒川委員

それは理念にも関わってくる。

末延委員長

点から線、線から面へというのと同じこと。

中協委員

このワードはここで止めておきますか。もしよければ発言どうぞ。

来村委員

連環という言葉がある。連携よりは斬新だと思う。

中脇委員

他に何かありますか。

来村委員

ラブリーホールに依頼すれば満足のアンケートは取れるということだが間に合うのか。

中脇委員

事業ごとのアンケートは集計できていると思うので間に合うのではないか。

荒川委員

アンケート用紙を提出するかどうかは人によってかなり差があると思う。

宝楽委員

これが今後評価になっていくのであれば回収率を上げていく必要がある。

中脇委員

アンケートそのものの集計もそうだが回収率も大事。回収率が上がっていれば、これはどうなんだという声も多く出てきて、それはすごくいい行為なのかもしれない。

末延委員長

回収率はアンケート用紙を配って箱の中に入れてくださいというのと、出口で受け取るのとでは全然違う。ラブリーホールが回収率を高める意識を持ってほしい。

来村委員

評価ではなく真剣にアンケートをとっているかどうかですね。

長山委員

文化的な理念が高く芸術性があるものは収益を全く考えなくていいのか。最低ラインといたものは必要ではないのか。

来村委員

芸術性はどこかで評価したらいいとは思う。

長山委員

収益の面でどの辺りまで加味するのか。

中脇委員

文化、芸術で収益がどれほどのような数字になればそれを評価するのか。

来村委員

文化や芸術をどこかの項目に入れてそこで数値を上げれば、収益が落ちても文化や芸術で膨らむのでいいのではないか。

中脇委員

例えば、ある事業をするとき予算的に 60%のチケット収入があればいいとしていて結果的に 70%であれば、これは収益をとれたという事にするのか。それとも 100%という絶対基準のようなものがあり「アンパンマン」のように多く稼げる映画で 200%いけるようなものが特に秀でて評価されるのか。自分は後者だと思った。元々 30%としていて、それが思った以上で 60%いった場合と、「アンパンマン」のような稼ぎ頭の事業は元々高めに 120%のよ

うに設定していると思うので結果的に 130%や 120%ぎりぎりとなると、達成率でいうと 30%が 60%になる方が評価としては高くなってしまう。これでは不公平ではないだろうか。この点が収益というワードで難しいところだと思っていた。

**末延委員長**

先ほど水落委員が収益のところと言った、収入に見合わない事業は文化事業の方向性を偏らせないために入れるということだと思う。

**宝楽委員**

機会提供としてということ。

**荒川委員**

それを収益の中で評価するのか、他であるのか。

**宝楽委員**

例えば理念がある。

**来村委員**

収益が凹んでいても他が膨らんでいけば、それで平均値が出るのでいいのではないか。収益だけで評価されたくないという考えはあると思う。それを他のところで稼いでもらう。

**中脇委員**

基本的には収支が 100 に近ければ近いほどもしくは超えてれば超えているほどいい。

**宝楽委員**

先ほど言っていた芸術性は理念のところですね。

**末延委員長**

ラブリーホールの経営自身は収益に関係するかもしれないが、当委員会は文化が向上する方向性を示していくべきで収益が目的ではない。

**来村委員**

仕分けをして収益というのは難しいと思う。逆に理念で問われる芸術性や客の満足にも収益は十分関わってくると思う。アンパンマンショーばかりであれば満足はよくなる。

**宝楽委員**

マニアックな職員が小さい映画館でしか上映しない映画をシリーズでやっていたとき、収益率は低かったが顧客満足度は最高だった。

**来村委員**

そういったことが見えるアンケートかどうかが大切。ただ楽しかったとかではなく、アンケートで事業の努力の仕方を評価することやあるいはアンケート項目を工夫してはどうか。

**中脇委員**

評価軸は行政がラブリーホールの事業を評価するために使い活用するということですね。では、ラブリーホールもこういう形で評価されるということが分かり、これを基に事業を組み立てたり、アンケート項目も変えていくのですね。

**東畑主査**

そういう風に前向きに活用してもらいたいと思います。

中脇委員

今村委員どうですか？

今村委員

情報発信について、アクセス数とかはどうか。

宝楽委員

お金かけたのに実は人が来てなかったら、ラブリーホールとしては困る。

中脇委員

その効果がどうだったかということですね。

宝楽委員

それはホームページを見に来た人も含めるのか。

今村委員

そうです。ある事業に対して。

来村委員

教育の項目が手薄に思う。幼児教育だけでなく、他のも書いてください。

中道委員

初等教育、中等教育。

来村委員

あとは高等教育。

宝楽委員

保育園はどこに入るのか。

中脇委員

幼児教育は別ですね。大学も高等教育か。

末延委員長

大学、大学院は高等教育。

中脇委員

高校は？

末延委員長

高校は中等教育。

来村委員

生涯教育は枝分かれしないのか。

中道委員

中年期、高齢期、成人といった色んな言い方をするがどうだろうか。

末延委員長

成人大学といったものもありますね。

中脇委員

大体こんな感じか。あとはこの設問を決める。次回評価なので今日のゴールは Q&A に

なっていないといけなかったのではないか。

**東畑主査**

実はそうです。

**中脇委員**

これをベースに改めてラブリーホールの事業を見ながら、評価してみてもどうか。

**荒川委員**

これはラブリーホールの事業限定で、他の文化事業に応用するには別の Q&A が必要ですよね。

**宝楽委員**

もちろんです。

**中脇委員**

まずラブリーホールに対しては出来ているので、あとは個々の主観で持ち点 10 点として、それぞれ点を付けていく。

**宝楽委員**

「稼働…貸館事業の収益率、自主事業の集客率」という風に項目が並んでいて、そこに対して皆さんが 10 点ずつ付けていく。

**中脇委員**

今回の採点はそのような感じでいいですね。

**末延委員長**

収益、稼働、持続、理念それに合わせて宝楽委員が言ったように項目を出してそこに今度評価していく。

**末延委員長**

これを事務方で整理して出してもらえるか。

**東畑主査**

次回、皆さんにそれを基に評価していただきたい。

**荒川委員**

事前にもらえるか。

**東畑主査**

なるべく事前に渡せるようにさせていただきます。

**宝楽委員**

この文字入力はずぐできる。書いた本人がしないと難しい。

**末延委員長**

やはり本人が仕分けるほうがいい。では、事務局と組んでお願いします。

**中脇委員**

あとラブリーホールに次までに用意してほしいものありますか。理事会用のようなアンケート、あとはメディア。ラブリーホールに行ったときにもらった資料で大丈夫そうか。あれをもう一回改めて用意してもらえればいいか。

宝楽委員

平成 24 年度の事業報告書もらいましたよね。

中脇委員

あとは事業ラインナップ。

宝楽委員

あとホームページのアクセス数や市外の人割合を出してほしい。

中脇委員

ラブリーホールに次回このようなことをするという事情を話し、資料が足りないと思ったら補足資料や添付資料を一緒に出してきてもらえるよう頼む。

宝楽委員

事務局から言ってもらおう。

末延委員長

宝楽委員と中脇委員ありがとうございました。ホワイトボードを見てのよういろんな意見が出たのでこれを整理して、設問をセッティングし皆さんの評価をお願いしたいと思う。次に集めるラブリーホールに対する資料等については事務方で確認してください。

来村委員

最終的に文章で表現するのか、それとも数値を出すのか。

東畑主査

こういうレーダーチャートです。

来村委員

レーダーチャートは要るわけですね。同時に文章がいるのか。

東畑主査

文章を求めているわけではないです。

末延委員長

あとは事務方から連絡があるので聞いてください。

東畑主査

皆さん本当に有難うございました。事務局から最後ご連絡させていただきます。次回の会議は 8 月 25 日（月）18 時 30 分を予定しています。場所は 701 です。それでは、以上をもちまして今日は終わりたいと思います。ご協力有難うございました。